

2020年度 第341回教育研究審議会議事要録

日時 2020年7月21日(火) 13:30～15:25
場所 遠隔会議 (Teams利用)
出席者 松尾学長、柳井副学長、龍副学長、二宮副学長、中尾副学長、田上事務局長、伊藤外国語学部長、隈本経済学部長、田島文学部長、田村法学部長、内田地域創生学群長、上江洲国際環境工学部長、日高基盤教育センター長、八百社会システム研究科長、工藤マネジメント研究科長、小池法学研究科長、今泉学生部長、高橋教務部長、後藤入試広報センター長、佐藤情報総合センター長、中武環境技術研究所長

配布資料

- 1-1 教員採用選考報告書 (外国語学部)
- 1-2 退職願 (外国語学部)
- 2 特任教員の選考について (国際教育交流センター)
- 3 2学期の授業について
- 4 公開講座の開催状況について
- 5 2020年度に実施する入学試験について
- 6 国際環境工学研究科一般選抜・社会人特別選抜 (夏期日程) における実施方法の一部変更について (新型コロナウイルス感染症対策)
- 7 国際環境工学研究科外国人留学生特別選抜 (冬期日程) における実施方法の一部変更について (新型コロナウイルス感染症対策)
- 8 大学院担当教員の資格審査結果について
- 9 研究支援関連制度の見直しについて
- 10 2019年度休学及び退学除籍者数について
- 11 2019年度早期支援システム実施結果について (北方)
- 12 2020年度卒業予定者の内定把握率について

第1号 教員の人事について

* 資料1-1のとおり、外国語学部中国学科の中国語学、中国語教育担当教員人事について、選考委員会から採用候補者(橋本愛氏)の選考結果の報告がなされ、同報告に基づき採用候補者の採用について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

* 資料1-2のとおり、外国語学部からの申請に基づき、ロッシェル カップ教授の2021年3月31日付での退職について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第2号 特任教員の選考について

* 資料2のとおり、国際教育交流センターの特任教員1名の選考について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第3号 2学期の授業について

* 資料3のとおり、2学期授業開始時点の方針について提案。

- 授業の実施方針としては、講義（語学を含む）については、原則オンデマンド方式によるもの。演習や実習・実験は三密の回避等の感染症対策が可能なものは、段階的に対面授業へ移行していく。また、1・2年生及び留学生については、キャンパスへの通学が年間を通じて少なくなる（無くなる）可能性が高いため、各学部等において選定した科目等を用いて学生に対するフォローを実施する。現在、各学科で1・2年生及び留学生へのフォローについて対応可能な科目を検討し、挙げていただいている。また、3・4年生については基本的にゼミでフォローすることとなる。
- ライブ方式と対面授業の共存は難しいと考えるが、シミュレーション等を行っているのか。
- 現在、シミュレーションを始めているところであるが、フォロー科目等が確定しないと完全なシミュレーションが困難な状況である。ライブ方式授業については、前後に対面授業が入ると、移動時間の問題が生じるため、専用の教室を作ることも検討している。
- 少人数クラスの対面授業が開始されるのは、感染対策ができる10月又は11月頃からと考えてよろしいか。
- 感染対策がすべての教室で整うのが10月下旬又は11月と見込まれる。感染対策は夏休み以降開始することから、準備ができた教室から利用していくことが考えられる。ただし、Wi-Fi等情報通信設備の整備については多額の費用がかかり、市の補正予算を見込むため予算成立後になるが、いずれにせよ準備は速やかに行っていくこととしている。
- フォロー科目においては多くの受講者があり、全員が大学に登校するわけではないと考えられるが、その場合は、教員が授業を録画して、後にオンデマンド方式で配信する等の対応でよろしいか。
- パソコンで授業風景を撮影し、後にアップロードする方法でよいかと考える。
- 週に1、2コマしかない学生や遠方の実家に帰っている学生、感染の恐れから大学に来られない学生のために、ゼミについては、対面とライブが同時にできればよいが、教室の整備が間に合わないとのことであり、このような学生への対応については、どのように考えられているか。
- 対面授業とそのライブ配信を同時にしていくことが理想であるが、そのためには大学の情報通信設備の整備が必要である。授業開始前にゼミ単位等で学生への詳しい意向調査が必要でないかと考えている。
- 1年生の講義科目において多くの学生が一度に受講する科目は、最大のA-101教室でも対応できそうにないとのことであるが、授業の実施の仕方については各教員の裁量に任せてよいのか、もしくは単純に複数回開講する等のモデルが想定されているのか。
- 特にモデルはないが、単純に2つに分割することが考えられる。
- 授業で教室を使用した場合、授業後の消毒はどのように考えているか。
- 消毒は実施しなければならない。
- 地域創生学群の地域活動については現在、学長に実施計画書を提出して、許可をいただいているが、今後も許可制と考えてよろしいか。
- これまでどおり、許可制とする。

【議長】 提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告

- ① 公開講座の開催状況について
- ② 2020年度に実施する入学試験について
- ③ 国際環境工学研究科一般選抜・社会人特別選抜（夏期日程）における実施方法の一部変更について（新型コロナウイルス感染症対策）
- ④ 国際環境工学研究科外国人留学生特別選抜（冬期日程）における実施方法の一部変更について（新型コロナウイルス感染症対策）
- ⑤ 大学院担当教員の資格審査結果について
- ⑥ 研究支援関連制度の見直しについて
- ⑦ 2019年度休学及び退学除籍者数について
- ⑧ 2019年度早期支援システム実施結果について（北方）
- ⑨ 2020年度卒業予定者の内定把握率について

- ⑩ 第20回・第21回緊急対策本部会議での協議内容について（口頭）
- ⑪ 次回の審議会を2020年9月8日（火）に開催する予定の旨、連絡があった。